

平成24年度教育委員会事務点検評価(平成23年度実施事務事業)評価表

1 事務事業の基本事項

		整理番号	10
事務事業の名称	スポーツ教室等開催事業	担当部課	教育委員会 生涯学習部 スポーツ振興課
		電話番号	04 - 2953 - 1111 内線 5711
実施期間	不明 ~		
総合振興計画における位置づけ	5章 人を育み文化を創造するまちをめざして	実施根拠	スポーツ基本法
	1節 生涯学習の振興		
	施策 43 生涯スポーツの促進	個別計画の名称	狭山市スポーツ振興基本計画
事業区分	<input checked="" type="radio"/> 自治事務 <input type="radio"/> 法定受託事務 <input type="radio"/> 法定受託事務+自治事務		
事業開始の背景等	生涯にわたって「だれもが」「いつでも」「どこでも」「いつまでも」スポーツ・レクリエーション活動に親しむことができるよう、そのきっかけづくりとして、開始された。		

2 事務事業の目的・内容

目的	スポーツ教室や行事等を開催することにより、市民にスポーツに親しむきっかけを提供し、相互の交流を深めるとともに、健康づくりや体力を向上することにより生涯スポーツの振興を図る。		
対象	市内に在住、在勤、在学する者		
活動内容	平成23年度のスポーツ教室は継続して実施している硬式テニス、スポーツ吹矢教室等をはじめ、新たに夏休み子ども教室や初心者女性ゴルフ教室も加え、13種目18回開催し、スポーツ行事も4種目7回開催、延べ開催日数は88日で、延べ参加人数は2,291人であった。		
(下段)前年度の方向性に対する改善活動	(前年度方向性評価)	継続	
環境配慮	各教室や行事において、ゴミの持ち帰りの徹底を図った。		
実施形態	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> 補助・負担 <input type="checkbox"/> その他()		

3 事務事業の実施状況と成果

区分	指標名	区分	単位	21年度	22年度	23年度	24年度	目標値の根拠・考え方
(活動状況指標)	スポーツ教室開催回数	目標値	回	18	15	16	18	昨年度の実績
		実績値		15	16	18		
		達成率		83.3%	106.7%	112.5%		
	スポーツ行事開催回数	目標値	回	8	8	6	6	過去3年間のスポーツ行事開催回数の平均
		実績値		6	6	7		
		達成率		75.0%	75.0%	116.7%		
(成果指標)	スポーツ教室参加人数	目標値	人	2,248	2,043	2,068	2,291	昨年度の実績
		実績値		2,043	2,068	2,291		
		達成率		90.9%	101.2%	110.8%		
	スポーツ行事参加人数	目標値	人	1,227	1,112	980	867	過去3年間の延べ参加者数の平均
		実績値		922	790	888		
		達成率		75.1%	71.0%	90.6%		

4 事業費

		区分	単位	21年度	22年度	23年度	24年度
経費	直接費	予算額	千円	670	776	899	904
		決算額	千円	514	605	734	/
		財源内訳	国県支出金	千円			
	その他特定財源		千円				
	一般財源		千円	514	605	734	
	人件費	従事職員数	人	1.00	1.05	1.05	
		人件費(従事職員数×平均給与)	千円	9,195	9,441	9,457	
		事業費計(直接費決算額+人件費)	千円	9,709	10,046	10,191	
効率性指標	指標名	参加人数(スポーツ教室・行事)	人	2,965	2,858	3,179	※1単位当たりの経費
	単位コスト	参加者一人当たりの経費	円	3,275	3,515	3,206	

5 事務事業の評価

◆第一次評価(担当課による評価)

項目	評価の視点	評価	評価理由
必要性	・目的の妥当性 ・市民ニーズへの対応 ・市が関与する必要性 ・市が負担する必要性 など	4	スポーツに親しむきっかけを提供し、市民の健康づくりや高齢者の生きがいづくりに資するものであり、市民のニーズにも合致している。
		前年度 4	
有効性	・活動目標の達成度 ・成果の向上 ・上位施策への貢献度 ・市民サービスの向上 など	4	スポーツ教室等の開催回数や参加人数は、概ね目標を達成できている。また、参加者からは、各種目とも好評を得ている。
		前年度 4	
効率性	・手段の最適性 ・コスト効率の向上 ・受益者負担の適正化 ・執行体制の効率化 など	4	スポーツ推進員やスポーツボランティアの活用とスポーツ・レクリエーション団体の協力により、教室等を開催したことで、種目や回数の確保ができ、新たな種目も加え、実施することができた。
		前年度 3	
		<5段階評価> 5:極めて高い 4:高い 3:普通 2:低い 1:かなり低い	
<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 内容の見直し <input type="checkbox"/> 抜本的見直し <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 完了			
今後の方向性	「だれもが」、「いつでも」、「どこでも」、「いつまでも」スポーツ等に親しむことができるよう、市民のニーズにあった教室等を開催する。特に健康志向に合致した教室等を開催する。		

6 その他(学識経験者の意見等)

スポーツ教室参加者は微増しているが、スポーツ行事参加者はあまり変わらない。だが、スポーツ推進員等との協力により教室等の開催に成果を出している。今後は、市内の企業などとも連携し、事業を実施していくことも考えなければならない。さらなるスポーツ人口拡大のためには、公民館や学校との連携を考えていく必要があると思われる。